

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
12

振興協議会だより

〔発行日〕平成27年4月27日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

津南小学校6年生(平成26年度)による苗場山麓ジオフォーラム

津南町と栄村で手を携えて未来志向の地域振興を夢見て、苗場山麓ジオパークライセンス取得を目指し、地域をあげて様々な取組を続け、昨年12月22日に認定を受けることができました。

そのライセンス取得を目指す過程において、津南小学校6年生(平成26年度)は総合的な学習単元において「津南魅力発信プロジェクト」というテーマを下敷きに、推進室と連携してジオサイトを巡り、自らが津南の魅力を発見し、それを発信するという魅力的な学習を展開してきました。

そのプロジェクトは、＜ジオパークゆるキャラ作成プロジェクト＞・＜ジオカルタ作成プロジェクト＞・＜ジオパークPR動画プロジェクト＞・＜ジオスタンプラリー企画プロジェクト＞・＜ジオ絵本作成プロジェクト＞・＜ジオパークPRソング作成プロジェクト＞の6つの構成で取り組まれました。

その成果を町民に伝える目的で、2月25日に津南町文化センターの大ホールを会場に『苗場山麓ジオフォーラム』を開催しました。

各プロジェクトのメンバーが、思い思い趣向を凝らして発表してくれました。心温まるPR動画が流れ、そして最後には、みんなの思いを歌詞に組み込んだ素敵なジオパークPRソングを先生のギターの生伴奏で声高らかに歌い上げてくれました。

それは、「♪津南はただのいなかじゃないのさ あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！僕らが津南の未来をつなぐ・・・僕らが津南の未来を創る！」のフレーズに、会場みんなが目頭を熱くし、今も思い出すと・・・。

苗場山麓ジオパークは、子供たちが自ら郷土のすばらしさを発見する機会となり、また彼らの心に郷土愛としての＜誇り火＞を確かに灯したといえます。



ジオりん パーくん
子どもたちが考えたゆるキャラ



各プロジェクトの発表の様子



予想を上回る観客に子どもたちも緊張ぎみ

日本ジオパーク中部(北信越)ブロック事務局会議

日本ジオパークに認定されて、ようやくスタートラインに立った苗場山麓ジオパークに電話が鳴った。「中部ブロック会議の幹事役のふくい勝山ジオパークです。認定おめでとうございます！」との一声。そして「実は“雪のふるさと”と謳っている苗場山麓で雪のある年度末に中部ブロックの事務局会議を開催させてほしい」との嘆願であった。

一年生の苗場山麓での会議は荷が重いと思ったが、ジオパーク活動の一番がネットワークづくりと貢献であったことに気が付き、ウエルカム！ということになり、事務局会議が開催されることとなった。

開催日は3月23・24日の年度末！参加は糸魚川、南アルプス、恐竜渓谷ふくい勝山、白山手取川、佐渡、立山黒部、そして苗場山麓の7ジオパークとジオパークを目指している高山がオブザーバーで参加した。

事前に、ジオパーク推進室の規模や予算、観光部局との連携、事業規模など、これから苗場山麓ジオパークが円滑な活動を推進するために必要と思える多様な事項を、アンケートというカタチで情報収集し分析を行った。これは財産と言える情報である。

23日午後は、各ジオパークから自らの取組や観光との連携をテーマに報告を受け、活発な質疑応答が繰り返され、あっ！という間に閉会となった。そしてこの余韻は懇親会へ。

泊りはしなの荘。上村振興協議会会長をはじめ、桑原教育長、栄村振興公社の福原事務局長などに馳せ参じていただき、会場を明るく盛り上げていただいた。ジオパークの社会的意義や運営の難儀さ、そして観光部局との連携など、皆、目を輝かせ、額に汗し、口角泡を飛ばしながら、こちらが本当の意味での事務局会議ではないかと思われるほど語り合い、遅い組は深夜まで、酒を飲み交わし、懇親を暖めた。

翌日の24日は、津南観光物産館の駐車場内に設置した苗場山麓ジオパーク総合案内看板や火焰型土器のモニュメントも見いただいた後、あいにくの天候で予定していた結束のシシ穴行きは断念せざるをえなかったが、スノーシューを履いて縄文ムラまで簡単なトレッキング。竪穴住居の中でドングリコーヒーと焚火でブレイクしながら、なじもんでの体験実習などについても説明。皆、雪が珍しいというジオパークの方々ではないが、スノーシューは初体験の方もいて、はじめはおぼつかない足取りではあったが楽しんでいただけたようだった。その後、雪景色を車窓に、苗場山麓のジオサイトについて説明しながら秋山郷へ入り、のよさの里で昼食。津南に戻り、次回は白山手取川ジオパークで開催することを約束し解散となった。



各ジオパークから1～3人が参加



立体模型で苗場山麓の解説



竪穴住居でブレイク

苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

清水川原の屏風岩(大嶺)



所在地 津南町清水川原 **種別** 地質

秋、国道 405 号線から清水川原集落を見ると、背景には 3 段の紅葉と荒々しい岩肌の屏風岩がそびえています。

約 77 万年前に形成した鳥甲火山の溶岩の上に、土(谷上^{たにあげ}ローム層など)が堆積し、そこへ約 30 万年前に活動した苗場火山の溶岩が流れ下りました。さらにその上へ、現在までローム層を含む土が堆積しました。よく見ると鳥甲火山溶岩と苗場火山溶岩の岩肌の違いもみえてきます。

溶岩部分には植物が生育せず、苗場火山の溶岩の上層の土と苗場火山の溶岩と鳥甲火山の溶岩の間には植物が育っています。これにより、秋にはそれらの植物が色づいて美しい 3 段の紅葉となり、私たちの目を楽しませてくれます。

また、この下方の清水川原の中津川左岸には、地名の由来である川原に豊富な水が湧いています。

天代の露頭



所在地 栄村天代 **種別** 地質

天代では、およそ 43 万年前から現代までの地層を観察することができます。

この露頭は、志久見川の上流、天代川に併走する、天代から野口へ向かう上り坂カーブにあり、およそ 43 万年前から現代までの地層に何枚もの火山灰が挟まっています。観察すると、よく目立つ 2 層の火山灰があり、上位の火山灰は DKP (大山倉吉パミス) と呼ばれる火山灰で、鳥取県の大山から約 5.5 万年前に噴火したものです。下位の火山灰は On-Pm-3C (御^{おん}岳^{たけ}奈^な川^{がわ}) と呼ばれる火山灰で、長野県と岐阜県にまたがる木曽御岳から約 7.5 万年前に噴火したものです。これらの 2 層の火山灰を目安にして地層の年代を観察することができます。

43 万年前から現代に至るまでの地層を連続的に一つの場所で観察できるのは珍しく、志久見川流域の重要かつ貴重な露頭です。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

第1回苗場山麓ジオパークガイド認定検定

3月28日、第1回目の苗場山麓ジオパークガイド認定検定（初級）が行われました。申込者54人で、当日は、50人の受験者が、50問（四者択一式）の問題にいただきました。問題は、昨年から開催されてきたガイド養成講座の資料から主に出题されました。この検定の得点とガイド養成講座の参加回数によって得点が加算され、合否が確定します。

4月中旬に合否の発表をし、その後認定書授与式を行う予定です。

合格して晴れて苗場山麓ジオパーク認定ガイドとなった皆さんには、どんどん活躍していただき、苗場山麓の魅力を自分の言葉で十分に伝えることのできる案内人になっていただくことを期待しています。



苗場山麓ジオパーク・ハンドブックが完成しました！



苗場山麓ジオパークの魅力や成り立ちを、小学生から観光客まで幅広い方々に楽しく知ってもらうことを着想に制作した「苗場山麓ジオパーク・ハンドブック」（A5版フルカラー・32ページ）が完成しました。紙面のモデルには、芦ヶ崎小学校の子どもたちに協力していただき、わかりやすいイラストや写真が満載の冊子となっています。

すでに津南町と栄村の小中学校や各施設などに配布しました。ご希望の方は、観光協会またはなじょもんにお問合せください。

ジオパーク関連商品のご案内

ジオパークの認定にともない、ジオパーク関連商品を開発、販売して下さる地域の商店や企業が増えています。

今後、苗場山麓ジオパークを訪れる観光客に対する商品やサービスに、またそれに限らず、ジオパークを利用していただければと思います。

苗場山麓ジオパークのロゴマークやジオサイトの写真の利用に関しては、ジオパーク推進室までご連絡ください。

（ジオパーク推進室 ☎ 025-765-1600）



好月さんの「ジオこがし」
ロゴマークが焼印されています！



旭商事さん



苗場酒造さん



わくい煎餅さん